

神論



第五章 摂理

5.1. 万物の偉大なる創造者・神は、すべての被造物と行為（ダニエル 4:34, 35、詩 135:6、使徒 17:25, 26, 28、ヨブ 38, 39, 40, 41 章）と、最も大きいものから最も小さいもの（マタイ 10:29-31）等を維持させ（ヘブル 1:3）、導かれ、処分なさりながら、統治なさいます。神は、ご自身の知恵と聖なる摂理（箴 15:3、詩 104:24, 145:17）を、ご自分の無謬な予知（使徒 15:18、詩 94:8-11）と自由の中で、変わることはない御心に従って（エペソ 1:11、詩 33:10, 11）実行なさりながら、それによって、その知恵、力、能力、公義、善と慈悲のご栄光を褒め称えさせます（イザヤ 63:14、エペソ 3:10、ロマ 9:17、創 45:7、詩 145:7）。

摂理は、万物の統治と保全に基づいて構成されます。神の統治は、自然的次元と道徳的次元とに分けられて二重的です。その理由は、統治の対象が、理性と霊魂のない被造物と御使いと人間のように理性と霊魂のある被造物とに区分されるからです。すべての被造物は神によって造られ、神によってその存在が継続されるからです。1項において強調されているのは、神の摂理と摂理の範囲、摂理の正しさについてであり、当然、褒め称えなければなりません。

しかし、神の摂理を信じないで、反対する誤り等々があります。運命論者は、神が宇宙を創造なさる時、物質世界には自然法を付加させ、人間には道德法を与え、創造以降に各々独自の自らを維持させ、支配するようになさったと主張をします。しかし、創造主・神は、すべての被造物を統治され、保全なさいます。また、理神論主義者と合理主義者たちは、神は因果関係の始まりだけに関与し、万物は永久に独立的な存在として、それ自体で機能を持ち、行うように放って置かれると主張しますが、間違った教えです。汎神論主義者たちは、宇宙内のすべての現象等は、普遍的で、絶対的な本質による多様な形体に過ぎないと考えていますが、間違った思想です。ウェストミンスター信仰告白書の作成当時、1項において念頭に置いた誤り等々は、神の摂理に反対していたソツィーニ主義とアルミニウス主義でした。

5.2. 第一の原因である神の予知と聖定に従って、すべての事々が不変的かつ無謬的に起こって来ると言っても（使徒 2:23）、同一の摂理によって、神は第二の原因の性質に従って、そのすべての出来事は、必然的に、自由に、また偶然に起こって来るように命令なさったのです（創 8:22、エレミヤ 31:35、出 21:13、申 19:5、1列王 22:28, 34、イザヤ 10:6, 7）。

神が第一の原因であるというのは、神はご自身の御心を実行なさる方だということです。神はどの誰の助けも必要とされません。神が望むままを行うだけです。しかし、神の知恵ある摂理は、すべてが起こって来るように命じました。これを自然の第二の原因と呼ばれます。神は、「自然法」と呼ばれる物理的な法則に従って物質世界を支配なさいます。これは、天の法則と調和を保ちます。神は、ご自身の主権的な御心が有効になるように多様な手段を用います。神は、通常的手段と非常な手段すべてをご自身の御心に従って用います。神の完全な摂理は、神の完全な予定から出て来ます。

5.3. 神は、通常の摂理においては多様な手段を用いますが（使徒 27:31, 44、イザヤ 55:10, 11、ホセア 2:21, 22）、手段を用いず（ホセア 1:7、マタイ 4:4、ヨブ 34:10）、手段を飛び越えて（ロマ 4:19-21）、そして逆行しながら、ご自身の良しとされるままに自由に御業を行われます（Ⅱ列王 6:6、ダニエル 3:27）。

5.4. 神の全能の力と、計り知れない知恵と、無限なる善は、ご自身の摂理の中で安全に現われます。この摂理は、アダムの最初の墮落と御使いたちと、人々のあらゆる罪とに拡張されますが（ロマ 11:32-34、Ⅱサムエル 24:1、Ⅰ歴代 21:1、Ⅰ列王 22:22, 23、Ⅰ歴代 10:4, 13, 14、Ⅱサムエル 16:10、使徒 2:23, 4:27, 28）、単純な許容によるものではなく（使徒 14:16）、極まる知恵と強力な制限（詩 76:10、Ⅱ列王 19:28）と、ご自身の聖なる目的のため（創 50:20、イザヤ 10:6, 7, 12）、多様な、聖定の実現のうちにある、命令と支配とに縛られている許容です。しかし罪悪性は、ただ被造物から出て来るものであって、神から出るものではありません。神は最も聖であり、正しい方なので、罪の助成者でもなく承認者でもありません（ヤコブ 1:13, 14, 17、Ⅰヨハネ 2:16、詩 50:20）。

神は通常的手段、非常的手段、手段を一切使わない中で、あるものを選ぶとしても、それは神の最高の知恵と摂理の中で起こって来ることです。それは、ご自身の良しとするままに行われるから、神の民は必ず自足することを学ばなければなりません。

神の摂理は、罪を起こさせたり、是認するものではありません。被造物の罪と神の摂理とを関連させて語る時は、神が罪を許容なさったり、また制限させたり（Ⅱ列王 19:28）、ご自分の聖なる目的に貢献するように支配なさるという表現

を使います。神は、イスラエルの歴史の中で、ご自身の民を救うために悪い者たちを用いたり、ご自身の民を懲らしめるために、悪い国々を用いました（イザヤ 10:6-7, 12）。

5. 5. 極めて知恵があり、正しく、恵み深い神は、時々、ご自身の子らを色々な誘惑と自分たちの腐敗した心のままを行うように捨て置かれますが、それは、彼らの過去の罪を懲らしめたり、隠されている心の腐敗と偽りを知るようにさせ、謙遜になるように（Ⅱ歴代 32:25, 26, 31、Ⅱサムエル 24:1）、彼らがますます神に近づき、さらに神を持続的に寄り頼ませ、罪を犯せられるすべての場合には、さらに警戒させ、その他、色々の正しく聖なる目的を成就させるためです（Ⅱコリント 12:7-9、詩 73、77:1、10, 12、マルコ 14:66-72、ヨハネ 21:15-17）。

神は信者の罪を許容なさる理由は、新しく生まれたとしても腐敗性が深刻だということを実際に悟ることを願ってのことです。そして、罪について懲らしめて、罪の習慣を治すためです。信者の罪を治すために、神は懲らしめを手段として、恵みをしばらく止めてしまいます。この時、霊的の惨めさを経験させながら神の恵みの回復を渴望するようにさせます。結局、神さまが恵みを回復させた時、恵みの大切さを悟り、尊く思わせ、罪の恐ろしさを経験した後は、罪に対して憎み、戦わせる効果が表れます。

5.6. 義なる裁判官となられる神は、悪で、不敬虔によって神に罪を犯す者たちに、彼らが犯した過去の罪のゆえに、彼らを盲目させ、心を頑なにさせ（ロマ 1:24, 26, 28, 11:7, 8）、彼らの心を目覚めさせ、彼らの心に感化を与える恵みを取りあげてしまいます（申 29:4）、また神は、時には彼らが持っている賜物さえ奪ってしまい（マタイ 13:12, 25:29）、彼らの腐敗性によって罪を犯せる状況に露出させ（申 2:30、II列王 8:12, 13）、彼らの情欲と世の誘惑とサタンの権威とに渡してしまい（詩 81:11, 12、IIテサロニケ 2:10-12）、それも、他の者らを和らげるために、神が用いる手段の下で、自分らを頑なにさせます（出 7:13, 8:15, 32、IIコリント 2:15, 16、イザヤ 8:14、Iペテロ 2:7, 8、イザヤ 6:9, 10、使徒 28:26-27）。

5.7. 神の摂理は、一般にすべての被造物に及ぶように、神は最も特別な方式に従って、ご自分の教会を顧み、有益のためにすべてを処理されます（Iテモテ 4:10、アモス 9:8, 9、ロマ 8:28、イザヤ 43:3-5, 14）。

5章の最後の部分は、神はご自分の民の有益のために、苦しみをを用いることを明確にしました。しかし、これらすべては、ご自分の教会の特別な有益のためです。教会の敵たちが教会を壊そうとするけど、神は摂理を通して、教会をますます堅固にされる御業を成します。悪魔が、誤りと異端の教えを教会に浸透させて、真実な信者を迫害しますが、教会は保全されます。神の摂理の目的は、教会のためです。すべての民族と人々を教会に集まるようになさいます。